

令和6年産米品質改善技術情報 第4報

現在の状況と今後の予測

「あきたこまち」は8月上旬から収穫期となりました。「コシヒカリ」は8月中旬から順次、成熟期に入っており、数日で収穫期となる見込みです。

斑点米カメムシ類の発生が高い水準で推移しています。また、今後、稲刈りの済んだ周辺ほ場からの侵入も想定されます。

気象予報

【1ヶ月予報(8月8日名古屋地方気象台発表)】

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月(8月10日～9月9日)の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

今後の重点対策

◎品質向上対策を！！

① 早期落水は避けましょう！

早期の落水は未熟粒や胴割米の発生につながります。落水は収穫前7日以降を目安とし、ほ場条件に合わせて調整してください。

② 適期収穫に努めましょう！

早刈りは青未熟粒、刈り遅れでは胴割粒の発生につながります。収穫適期は「コシヒカリ」では籾水分が25%程度になった頃です。

③ 乾燥は丁寧に行いましょう！

急激な乾燥や過乾燥は胴割米の発生につながります。毎時乾減率は0.8%以下を目安としてください。

◎斑点米カメムシ類・ウンカ類の対策を！！

・斑点米カメムシ類が多発しています。今後は稲刈りの済んだ周辺ほ場からの侵入もありますので、中晩生品種栽培ほ場においても防除を徹底しましょう。

・ウンカ類の飛来が確認されています。発生に注意し、早期の対策に努めましょう。

◎収穫後は早めの耕起を！！

翌年の雑草や漏生イネの発生を抑制するため、早めの耕起を行いましょう。来年度のニカメイガやヒメトビウンカによる被害を抑える効果もあります。また、気温が高い時期に耕起を行うと、稲わら等の分解が促進されます。

今後は台風が来襲することも考えられますので、大雨による稲わらの流出防止のためにも早めに耕起をしましょう。

令和6年8月15日
三重県産米品質改善対策会議